

平成 29 年(2017 年)ゴリ資源の現況把握調査

孝橋賢一・井出充彦・田中秀具

1. 目的

ヨシノボリ類稚魚である“ゴリ（ウロリ）”は琵琶湖の重要な水産資源の一つであるものの、資源生物学的な知見に乏しい。そこで、資源状況把握の一環として、ビームトロール網によるモニタリングを行った。

2. 方法

ゴリの主要漁場である薩摩地先（水深 4m、7m、10m、13m）および松原地先（水深 4m、7m）、沖島地先（水深 4m、8m）において、ゴリ調査用に開発したビームトロール網（ビーム長 3m、袋網目合 1.4mm）を用い、1.2～1.5 ノットで 6 分間曳網し、採集を行った。採集したサンプルは現場にて 10%ホルマリンで固定し、ソーティングを行ったが、体型が小さく、種判別の困難なハゼ類は、便宜的にゴリとし、計数した。

本調査によるゴリの採捕尾数は、例年、6 月頃から取れはじめ、7 月頃に最も多くなる変動を示している。そこで今年度は 5 月から例年最大値となる 7 月にかけて、集中的にのべ 5 回調査を行った。

資源指標値の評価については、携帯型 GPS にて曳網開始時と終了時の位置を記録し、カシミール 3D(杉本, 1995-2016)を用い、曳網距離を計測し、100m 曳網当たりのゴリの採捕尾数として評価した。

3. 結果

ゴリの平均採捕尾数は、過年度同様、漁期直前の 7 月の水深 8～10m 層で最も多く採捕された（図 1）。

そこで最大値となった 7 月調査時の水深 8m における水域別ゴリの平均採捕尾数は、沖島、薩摩が約 5000～8000 尾/100m 曳であったのに対し、松原は、約 25000 尾/100m 曳と最も多

く、また 2014～2017 年で比較したところ、昨年度比 1.68 倍となり、2014 年以降最も多くなった（図 3）。

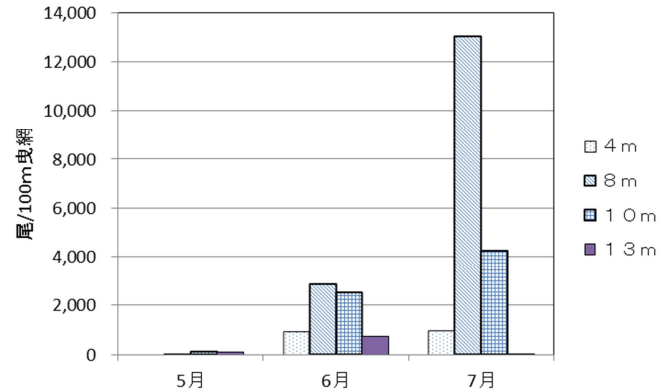


図 1 漁期直前までの水深別平均採捕尾数の推移

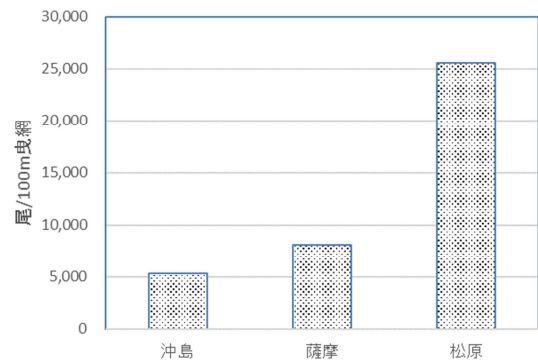


図 2 7 月調査時の水域別ゴリ採捕尾数（水深 8m）

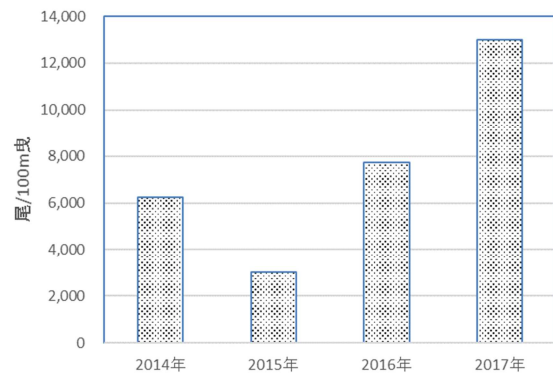


図 3 7 月調査時の採捕尾数の年変動（水深 8m）